

■ □ 開会挨拶

杉本 貴志 (関西大学教授・本研究所運営委員長)



こんにちは。開会にあたりまして、ひとことご挨拶を申し上げます。全国各地、特に西日本各地で地震・風水害が相次ぐなか、本日は200名を超えるみなさまにご参加いただきました。定員が150名ですので、1.3倍です。これが大学であれば補助金全額カットとなるような詰め込み教育ですので(笑)、今回は会場がたいへん狭くなってしまいました。

今回は26回目の総会記念シンポジウムですので、四半世紀という言葉がありますけれども、第2四半世紀のスタートとなります。この年の総会記念シンポジウムをこんなに盛大に迎えることができまして、たいへん喜んでおります。

本日は第2四半世紀のスタートということで、いささか異色のプログラムを編成いたしました。良品計画、くらしの良品研究所、いわゆる“無印良品”から萩原富三郎さまをお迎えして、生活協同組合以外の事業組織がいかに人びとのくらしを支えているかを、クロストーク方式でお伺いしたいという企画であります。

私も個人的に、つい数日前ですが、生協のカタログに20色のカラフルなタオルが載っているのを横目で見ながら、無印良品の単色で渋いデザインのすばらしいタオルを大量に購入いたしました。単品のデザインというだけでなく、どういう生活デザインを提案するかという点で、やはり生協が、無印良品から学ぶことはたくさんあるのではないかと個人的には思っておりますが、ぜひ、みなさまもさまざまなことを吸収し

て、学んで、お帰りいただきたいと思っています。

また、2日目の明日は、本日のシンポジウムを受けまして、「企業の革新性と社会性の両立」というテーマで第3分科会が開かれます。さらに第1分科会では若手研究者の視点で「協同の再発見」をテーマに論議されますし、第2分科会におきましては、ベテランの研究者が「超高齢社会の生協福祉」を論じることになっています。

どうかみなさま、この2日間で新たな知識、新たな発見、新たな確信を得られることを期待し、心より願っております。2日間、どうぞよろしく願いいたします。

